

眼球突出

患者さんの訴えを聞いただけで、どんな病気が見当がつくものだ。症状によって、検査なしでも診断できる。

68歳のN子さん。2週間ほど前から、ものが二重に見えるようになった。急にそうになったが、いつもではない。時々起きる。そして、今朝のことだ。左まぶたが下がっているのに気付いた。慌てた。

訴えは、「二重に見える」「複視」と、まぶたが下がる「眼瞼下垂」だ。ならば、眼球を動かす筋肉か、筋肉を動かす神経に問題がある。と、医者は考える。

診察すると、確かに、軽い複視の他に左の眼瞼下垂もある。が、それよりも、左の眼球が少し飛び出しているようにも見えるではないか。「眼球突出」だ。Nさんには「質すと、」と、しつこく出てくるかも。しつこからか分からない」と、ケロッとしている。が、眼球突出なら、疑う病気がガラッと変わっている。

一番多いのは、バセドウ病だ。片目に起るものこともある。が、Nさんには特徴的な全身症状はないから否定的だ。眼の腫れや充血がないから炎症や血管の病気は考

えにくい。となると、残るは眼窩内腫瘍か。

眼窩とは、眼球が入っている頭蓋骨のくぼみである。そのくぼみの中に、腫瘍ができる。と、眼球を動かす神経や筋肉が圧迫され、ものが二重に見える。やがて、眼球突出だけでなく、眼瞼下垂を起すこともある。進行して視神経を圧迫すれば、失明に至るといふ病気である。

すでに、頭のMRI（磁気共鳴画像）の検査をする。と、左の眼窩内に、約2センチの腫瘍が見つかったではないか。眼球突出に気付かなければ、運悪く見落としていたかもしれない。ヤバイ。

ま、患者さんには、何が大切な症状か判断できるわけではない。だから、どんな症状でも、ありのままに伝えたほうが良い。でも、それがいつからどうなったかなど、メモをしておいてもらえるとありがたい。

（石黒修三＝いしぐろクリニック・脳神経

外科専門医…5/30北國新聞掲載）